



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

安住の場所／愛宕の家

<Y・I>

愛宕の家に新しい入居者さんが加わる。トイレまでの距離等、本人の身体能力を考慮して、その都度出来る限りの最適な居室を工夫する。時には、事情を話して、部屋替わりをお願いする事もある。しばらくして、慣れてくると、今度はあの人〇〇、この人△△。と他の人との関わり方が問題になってくる。

自分の家や家族なら、多少の不満があろうとも、これが「自分の家」という事で、納得しているのに…。
「ここは俺の家だ！お前ら出ていけ！」と入居している事も忘れ、他の入居者に言ってしまう場合もある。考えようによっては、そこまで慣れ親しみ自分の居場所となったわけで嬉しい。ただ共同生活の場で、しかも言葉の理解や状況が把握出来ない入居者さん達。一瞬の動きや行動を常に見守るわけにもいかない。そんな日々の状況で、時にはケンカが始まってしまう事もある。住宅型の老人ホームとしては、集合住宅のあり方をスタッフ自身が良く考えなければならない。ともすると、「みなと一緒に楽しいはずだ」と思い込んでいないか…。共同生活の中で、一人ひとりの性分や個性を認めながら、どこまで思いを受け止められるか？介護技術も大事だが、全体としてどう空間を作っていくかという視点で、日常生活の空気を読み取ってほしい。入居者のいさかきも介護者の課題。創意工夫で良い方向に向けられる事を期待したい。皆にとって「俺の家だ！」となるように…。



歩くことって…／ナイス・デイ <H・O>

「コーヒー行こっか？」と誘うと「おいしいよー」と軽く腰をあげてくれる M さん。以前に比べると認知も進み、少し前にコーヒーを飲んだ事さえ忘れてしまう。歩く事もおぼつかなくなってきた。加齢と云われればそれまでだが、彼の健脚ぶりは利用者さん1だった。この間、いつもの喫茶店より、遠い喫茶店へ行く機会があった。他の利用者さんに次々追い越され、時に立ち止り休憩すること数回。ひたすら歩き続ける事20分。無事にたどりついたコーヒーを前に笑顔がある。帰宅し、周囲のスタッフから「無理させて！」とお叱りをうける私。
翌日、心配になり、彼に体調を尋ねると「何ともないけど？」といつもと変わらない。正直ホッとした。季節の移り替わりを体で感じて自然な事だが、どの利用者さんにも、少しでも感じてもらいたくて、今日も外出する機会を策略する私♪。



暮らし／愛宕の家 <E・T>

11月1日、新しく入居される方や入居している利用者さんの心身及び金銭事情等を考慮して居室移動を行いました。しかし、住み慣れた居室を変わることは一大事です。愛宕の家は、下宿屋さんのようなふすま一枚の関係。日中は、ほとんどの方がフロアでお互いの存在を認め合っていて過ごしています。いつもの人がいつもの場所に座っていないと「〇〇さんどうしたんだろう？ござらんなあ」と心配されたり、周りの変化に、不意に自分の身にも何か起こるのかと不安になりそわそわと落ち着かないことも…。人間関係には必ず相性というものがあります。居室を変えたり、座る場所を変えることは、本人納得の上かと言われると、記憶が続かなかったり意思表示できない場合、難しい問題。ふすま一枚の関係だからこそ、一人一人が毎日を人間らしく暮らして頂ける様、それぞれの想いを確認する。そして、職員同士も率直な意見交換をすることが大切だと日々感じます。

10月の利用状況と行事予定／SOS

- ☆ナイス・ケア(定員なし)…新規サービス大歓迎
- ☆愛宕の家(定員17名)…入居者14名
- ☆つしま紹介所…新規紹介者様大歓迎
- ☆ナイス・ホーム(定員21名)…登録者15名
- ☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
4	6	7	4	6	7	4

(上記の数字は定期利用者数)

職員応募、大歓迎！

「11月の予定」

- 10日(土) 外食デイ
- 13日(火) 誕生日会
- 下旬頃 いちよう見物

アンケート／SOS

アンケートにご協力いただきありがとうございます。今後の運営・対応の参考にさせていただきます。今月は、愛宕の家の入居者さんへアンケートを同封しました。ご家族の忌憚ないご意見をご記入下さい。

第三者評価を終えて／ナイス・ホーム <Y・O>

10月17日、3回目の第三者評価を受けました。事前提出資料の準備は、1年を振り返る良い機会です。特に50項目程におよぶ自己評価表の作成は、利用者さんの顔を思い浮かべながらの作成になりました。当日、施設見学を終え、自己評価を元に聞き取りと書類の確認が始まりました。詳細が確認できる書類の提示、どんな考え方で対応しているか…など。事業所やスタッフの思いを交えながらの調査でした。
一番印象に残ったのは、ハンドタオルを手や口拭きに使用している事に対して「施設の物品か？どういう意図か？」と聞かれた事。日々の関わりの中で、自宅だったら…という感覚で対応していることが多々あるため、あえて質問されることになるのか…と。費用は高いですが、第三者の目を見て評価を受ける事は貴重な機会。それを生かすも殺すもスタッフ次第。評価結果はワムネットに掲載されます。是非、見て下さい。ちなみに、今回は、過去2回と異なる評価機関に依頼。評価機関によって何をどう見るのか？こちらら評価機関の質を見ながら、色々な意見を頂戴したいと考えています。



日々感じる事／看護師コーナー <M・T>

延命治療をどうするか・『しない』と答えても『する』と答えてもどちらも不幸だと思う。意思表示のできない患者の家族に対して『延命治療をしますか』と選択を迫るとしよう。『しない』と返事した家族は、延命できたかもしれないのに自分たちが『しない』と決断したために、患者本人の命を縮めたのではないかという自責の念に苛まれてしまう。逆に『する』と返事をした家族は、延命治療をしたことで患者本人を苦しめていないか、とこれまた自責の念に苦しめられる。～来月に続く。胃瘻を造ることに色々な意見がある。家族の迷う気持ちにも遭遇してきた。一つの意見として参考にしたい記事を見つけたので数回に分けて紹介していきます。
今月から7ヶ月の息子もお兄ちゃんと同じ保育園に無事入園。2歳のお兄ちゃんは、「弟=母ちゃんがおんぶ」なので弟を見かけると母ちゃんを探そうです。でも「母ちゃんは仕事！」と自分で言って納得しているとか。さあ、元気に空高く、羽ばたけ！

利用者さんからの言葉／ナイス・ケア <M・N>

夫婦二人暮らしの M さん。訪問するようになってから7年が過ぎようとしている。最初の頃、何でもできる M さんにとって、ヘルパーのする事はもどかしく、訪問する度に注意を受けた。帰省された家族の前でこっぴどく注意を受けた時等は、情けなくて車の中で涙を流した事もある。恥ずかしい話だが、自ら担当を外してもらうよう頼むつもりで『どうして細かなことまで注意をするのか？』と理由を聞いたことがあった。Mさんからは『今、自分が動ける間に、この家の味や生活習慣の全てを分かっておいて欲しい…』と真摯な返答を受けた。最近、夫婦共に要介護状態へ変化している。先日、ボソッと『あんたが来るとホッとするわ』と言われた…。これまで数々の注意を受けた情けなかった想いがスーッと消えた。
先日、Tさんの新規面談に伺った。長時間、話し込んでみないと全く分からなかったが、中度くらいの認知症の方だった。Tさんからは、案の定、『自分は元気で何も困ってないかいお手伝いなんて必要ないわ』と受け入れを拒まれた。立ち合われた別居の息子さんが心配していた。
私は、『しっかりしている今から少しずつ関わっておくことで、体調が悪くなった時などイザと言う時にも、きっと、安心して過ごしてもらえようになりますよ。』と切に伝えた。来月から訪問スタートです。

自信がついた？／ナイス・キッズ <R・W>

太鼓の練習日。いつもの様に、練習していると、「あれ？この子えらいやる気になったぞ！」と思う瞬間があった。打太鼓(だだっこ)の中でも、一番小さな4歳児だ。
今までは声をかけると、恥ずかしがって(?)か、とたんに打つのをやめてしまう。ましてや人前で、一人打ちなんて絶対やらない。大人も小学生組も、いつも見て見ないふりをしながら見守っていた。しかし、その日は違っていた。「オレって上手いでしょ！！」とばかりに打っているのである。4歳児のあまりの変化に、数週間前の出来事が頭によぎった。保育園の運動会、『リレーで一等だった♪』と、満面の笑みで話しており、そこにいた人は「すごいねえ～♡」と褒めていた。彼はその反応にとっても満足そうだった。ひとつの出来事が次の自信につながったのだと思える瞬間だ。そういう変化を見つけるのはとても楽しいものだと感じる。



編集後記<Y・O>

朝・晩の気温差が多くなってきました。体調を崩されている方はみえませんか？今の時期、スタッフの健康診断が始まったり、利用者さん達のインフルエンザの予防が行われたりと、S・O・Sでは健康管理に意識が高まっています。美味しいごはんを食べて、ゆっくりお風呂につかり、適度に運動。しっかり睡眠。そして、手洗いうがい。予防対策もしっかりとね。寒さに負けず元気に頑張ります！